



日本口腔ケア学会

Vol.9-No.1

発行：一般社団法人 日本口腔ケア学会事務局 〒464-0057 名古屋市千種区法王町2-5 G-10E Email: office@oralcare-jp.org FAX: 052(784)5202

日本医学会分科会加盟を目指して

一般社団法人日本口腔ケア学会
理事長 夏目 長門

本学会は医師を含む多職種の会員で構成されていることが特徴です。本年度の第21回までの学術大会で5回は医師（川合秀治氏、高戸 毅氏、山中克己氏、丹沢秀樹氏、星 和人氏）が大会長を務められました。2019年度には日本医学会総会の齋藤英彦会頭、2023年度には春日雅人会頭に本学会学術大会の名誉会長として就任頂き、その後も継続して指導していただいています。また2027年度には澤芳樹会頭に同様に名誉会長に就任頂く予定です。現在、齋藤英彦氏はじめ、垣添忠生氏、佐々木英忠氏、渡邊英夫氏、高戸 毅氏、相澤孝夫氏をはじめとする多数の医師に本学会運営を指導していただいています。2019年度からは日本医学会総会と本学会学術大会を同時期に開催し、日本医学会総会参加者は無償で本学会学術大会に参加することができます。

海外に向けては、日本学術振興会研究成果公開促進費を得て “Manual for Oral Care” (Quintessence Publishing Co., Inc., 2011) および “Text Book for Oral Care” (Quintessence Publishing Co., Inc., 2015) を出版するなど、口腔ケアの重要性の海外への発信に努めています。また2015年度に日本医師会雑誌が口腔ケア特集（第144号第3巻）を発刊した際には、本学会はその編集に全面的に協力しました。口腔ケアで日本の医療に貢献するため、2006年度には口腔ケア認定資格制度、2013年度には口腔ケア認定施設制度と大学院教育施設制度を創設しました。これまでに7,800名以上の口腔ケア認定資格者、35名の口腔ケア指導者、69の学会認定施設が誕生し、九州大学、長崎大学、愛知学院大学の3大学が学会認定大学院教育施設となっています。2019年度には医科歯科連携委員会（委員長 星 和人、医師、本学会副理事長、東京大学大学院医学系研究科教授）を設置し、急性期患者の口腔疾患治療に困難が生じている日本の病院環境を改善するため各種の連携事業に取り組んでいます。

医師を中心とした多職種連携が研究会発足当時からの一貫した本学会活動テーマとなっており、最大の強みともなっています。会員数は近年飛躍的に増加しており、その構成は、医師のほか、歯科医師、薬剤師、歯科衛生士、看護師、言語聴覚士、管理栄養士、介護福祉士などであります。日本医学会分科会に属する日本癌治療学会、日本臨床腫瘍学会、日本緩和医療学会、日本麻酔科学会、日本移植学会、日本呼吸器学会、日本透析医学会、日本医真菌学会と連携協定を締結、2017年度にはベトナム国立ハノイ医科大学と口腔ケアに関する連携協定を締結するなど、本学会は国内外に大規模医療ネットワークを有しています。

口腔ケアは、身体全体の健康を支える鍵であると同時に、各種疾患の支持療法として重要な役割を果たすとして医学界をはじめとして歯学界・薬学界・看護学界からも近年特に注目を集めています。当学会は2021年度からICD（Infection Control Doctor）制度協議会の加盟団体となり、感染症対策にも注力しています。ICD制度協議会主催の講習会は年3回開催しており、院内感染対策としての専門家養成にも貢献しています。

また、東京宣言（2021年）、大阪宣言（2022年）、響働宣言（2023年）及び東京歯科大学宣言（2024年）をこれまでの学術大会において発出してきました。

本学会は星和人 東京大学大学院医学系研究科 教授をはじめとして多くの医師に御助力を賜るとともに多職種が連携して心をひとつとして国民目線に立った活動を行なっています。

日本医学会分科会加盟は数多くの学会から申請がありながら毎年1学会ほどしか認められない狭き門です。

引き続き御指導御助力をお願い申し上げます。